

# あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み】



ひとりでも多くの人の役に立つために、  
この北海道で地域と人のために私たちができること。  
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。  
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂



今年10月19日(土)に実施。競技では、障害物回避、目測停止、接客・接遇など、日々の業務を再確認する。公道での走行もあり、張り詰めた空気の中で行われる。

## 「安全運転・サービス競技会」を実施

### 「アイアール北海道バス」

## 札

幌に本社を置くジェイ・アール北海道バス(株)は、札幌市内に四カ所、小樽市、深川市、長沼町、様似町にそれぞれ一カ所の計八営業所を展開するバス会社です。平成十二年の開業以来、乗合バスをはじめ、都市間バス、貸切バスなど各種バ

ス事業を通して、人々に安全で快適なサービスを提供しています。平成二十三年には、「貸切バス事業者安全評価認定制度」の認定を受けました。もちろん、他のバス事業においても、ドライバーへの安全教育を徹底し、安心して利用できる交通機関として信頼を深めています。

今年、第十四回目を迎えた『安全運転・サービス競技会』も、運転技術の向上と質の高い接客サービスの提供をめざした取り組みの一つです。毎年、十月に開催されるこの競技会は、各営業所から選ばれたドライバーが参加。今回も年齢、経験年数の異なる十八名が日頃の業務で



模擬乗客への接客も競技の1つ。2名の審査員がその様子を審査する。

グラムも体験。これには、見学者として集まった新人ドライバーも参加しました。ちなみに、新訓練車はデータ計測器の搭載など、今後も装備の充実を図っていきます。

競技終了後、参加者は口々に「初心に返ることができました」と話しており、各人とも自らの運転技術と安全への意識を再確認する機会ともなったようです。同社では、ドライバーとして経験を積んだ後、運行管理者や指導運転者などへのステップアップをめざすことができ、競技会の運営担当者には、この経験を新たな目標を持つきっかけにしてほしいと話しています。



実技では「点呼」や、その日乗務するバスの点検をする「日常点検」も審査の対象。